

1人1台端末の利活用に係る計画

～1人1台端末の活用による学びの変革に向けて～

1 計画の目的

本計画は、廿日市市の児童生徒に対する1人1台端末をはじめとしたICT機器の利活用を通じて、主体的・対話的で深い学びを実現し、児童生徒の情報活用能力を高め、将来を切り拓く力を育むことを目的とする。

急速な技術革新により、社会構造は大きく変化しており、教育現場においてもその変化に対応した学習環境の整備と教育内容の充実が求められている。本市ではICTを活用した教育の質的転換を推進し、「ふるさと廿日市に愛着と誇りをもち、未来を担う人づくり」（廿日市市教育振興基本計画）の実現を目指す。

2 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

児童生徒が自ら問いを立て、課題を見出し、解決策を考え、他者と協働しながら学びを深める力を育成する。その過程でICTを学習ツールとして活用することにより、個別最適な学びと協働的な学びの両立を図る。

教師が一方向的に知識を伝える授業から、児童生徒が主体的に学ぶ授業への転換を促進し、急速に変化する社会に主体的に関与できる人材の育成を図る。併せて、オンライン学習やクラウドサービスの活用により、時間・場所にとらわれない柔軟な学びの機会を確保し、全ての児童生徒に学びの保障を提供する。

3 GIGA第1期の総括

令和2年度末において、全児童生徒に対して1人1台端末の整備を完了した。各学校には高速大容量通信ネットワーク、電子黒板等のICT機器も整備し、学習環境の基盤を構築した。

また、約4校に1人の割合でICT指導員・支援員を配置し、授業におけるICT活用を支援するとともに、担当教員向けの研修や、活用推進指定校による事例共有を通じて段階的な活用促進を図った。

その結果、活用が進んだ学校があった一方で、活用に課題を抱える学校も存在し、個別最適な学びや協働的な学びには十分につながっていない事例も確認された。また、一部の児童生徒による学習とは関係のない端末利用も見受けられたことから、「デジタル・シティズンシップ教育」の必要性が明らかとなった。

4 1人1台端末の利活用方策（GIGA第2期）

（1）授業改善に向けたICT活用の推進

GIGA第2期においては、端末更新とともに第1期で整備されたICT環境を維持・発展させる。ICT活用の推進から、日常的な授業改善への活用へと軸足を移し、指導主事を中心とした教職員への指導・助言を通じて、全校的な活用意識の向上を図る。

（２）教職員間・学校間の格差是正

端末の使用感や活用状況における格差については、各校の実態に応じた研修を実施し、行政と学校現場が連携して課題解決に取り組む。あわせて、指定校の実践を全市に波及させることにより、全校的な授業改善を進める。

（３）特別な支援が必要な児童生徒への対応

特別な支援を必要とする児童生徒に対しては、端末の効果的な活用により学習機会の確保と公平性の実現を図る。ＩＣＴ機器を通じて多様な学びの形を実現し、誰１人取り残さない学習環境の整備に努める。

（４）支援体制の継続と強化

ＩＣＴ指導員・支援員の配置、保守対応窓口の設置など、教職員のＩＣＴ活用を支援する体制を継続して構築する。端末更新にあたっては、現行環境の継続性と時代に即した柔軟性を両立させ、持続可能なＩＣＴ教育環境の整備を進める。

５ 今後の展望

児童生徒の情報活用能力を基盤とした学びの転換を推進し、変化の激しい社会を主体的に生き抜く力を育成することが求められる。今後は、端末活用と授業改善の両輪による学びの質的向上を進め、「令和の日本型学校教育」が目指す学びの姿を本市の教育現場に根付かせていく。

また、保護者や地域とも連携を図りながら、ＩＣＴの利点を最大限に生かした教育の実現に向けた取り組みを継続し、廿日市市全体で未来を担う人づくりを支えていく。